

令和8年度 もも防除暦(非コンフェューター体系)

氷見市農業協同組合
高岡農林振興センター

回数	月	時期	実施日	散布薬剤名	希釈倍率	薬剤の調合 (水100%当り)	10a当 散布量	収穫前 日数	主な対象病害虫	注意事項
休眠期			カイガラムシ類の発生が目立つ場合は、機械油乳剤95(20倍)を発芽前に散布する(石灰硫黄合剤との混用は避ける。また、樹勢が弱っている場合は薬害を生じるおそれがあるので散布しない)。また、カイガラムシ類多発樹では、機械油乳剤95散布前に枝幹の越冬虫をワイヤーブラシ等で削り落とし密度を減らす。							●機械油乳剤95の散布は石灰硫黄合剤散布予定の1ヶ月前以上とする。 ●カイガラムシ類は難防除害虫なので、薬剤散布と耕種的対策を組み合わせることで総合的に防除することが重要である。
①	3	上中旬 (休眠期)		石灰硫黄合剤	7倍	14%	300%	発芽前	縮葉病、胴枯病、黒星病、カイガラムシ類	●せん孔細菌病対策として、枯れた枝、芽は、切除し、園外へ持ち出し適正に処分する。 ●縮葉病の被害葉は、摘み取り、園外へ持ち出し適正に処分する。 ●灰星病対策として、花腐れ(枯れた花)を除去し、園外へ持ち出し処分する。 ●前年に灰星病の発生が多かった園では、③回目にロブラール水和剤(1,500倍)を混用する。 ●カメムシ類、シンクイムシ類(新梢の芯折れ)の発生が多い場合は、④回目はダントツ水溶剤(4,000倍)、⑤回目はスタークル顆粒水溶剤(2,000倍)を混用する。 ●コスカシバ対策として、4月下旬にガットサイドS(1.5倍)を樹幹部及び主枝に塗布、または散布する。 ●せん孔細菌病の発生が多い場合は、⑤回目にマイコシールド(1,500倍)、またはバリダシン液剤5(500倍)を混用する。 ●カイガラムシ類の発生が多い場合は、⑥回目にモスピラン顆粒水溶剤を2,000倍で散布する。 ●アブラムシ類の発生が多い場合は、ウララDF(4,000倍)を単剤で散布する。
②		上旬 (開花直前)		ムツシュボルドーDF	500倍	200g	300%	開花前まで	せん孔細菌病、縮葉病	
③	4	中旬 (落花直後)		ストマイ液剤20	1,000倍	100ml	350%	60日前まで	せん孔細菌病	
④		下旬		トレノックスフロアブル スターナ水和剤	500倍 1,000倍	200ml 100g	350%	7日前まで 7日前まで	灰星病、黒星病、せん孔細菌病、縮葉病 せん孔細菌病	
⑤		上旬		デランフロアブル	600倍	166ml	350%	7日前まで	せん孔細菌病、灰星病、黒星病	
⑥	5	中旬		トレノックスフロアブル モスピラン顆粒水溶剤	500倍 4,000倍	200ml 25g	400%	7日前まで 前日まで	灰星病、黒星病、せん孔細菌病、縮葉病 モモハモグリガ、アブラムシ類、シンクイムシ類、コガネムシ類成虫、カメムシ類	
⑦		下旬		デランフロアブル アブロードフロアブル	600倍 1,000倍	166ml 100ml	400%	7日前まで 14日前まで	せん孔細菌病、灰星病、黒星病 カイガラムシ類幼虫	
⑧		上旬		ベルコート水和剤 マイコシールド オリオン水和剤40	2,000倍 1,500倍 1,000倍	50g 66g 100g	400%	前日まで 21日前まで 14日前まで	灰星病、黒星病 せん孔細菌病 シンクイムシ類、カイガラムシ類、モモハモグリガ	●コガネムシ類、灰星病、せん孔細菌病対策のため、必ず「袋掛け」を行う。 ●6月以降、せん孔細菌病の被害葉が多い場合は、袋掛け終了後、速やかにICボルドー412(50倍)を単剤で散布する。 ●カメムシ類の発生が多い園では、⑧回目にオリオン水和剤をスタークル顆粒水溶剤(2,000倍)に変更する。 ●6月中旬～下旬にカメムシ類の発生が多い園では、モスピラン顆粒水溶剤(4,000倍)を散布する(⑨、⑩回目の殺虫剤をモスピラン顆粒水溶剤に変更可) ●ハダニ類が発生した場合は、マイトコーネフロアブル(1,500倍)を単剤で散布する。また、散布前に、園内の草刈りを徹底する。
⑨	6	中旬		トレノックスフロアブル ダイアジノン水和剤34	500倍 1,000倍	200ml 100g	400%	7日前まで 前日まで	灰星病、黒星病、せん孔細菌病 シンクイムシ類、ハマキムシ類、カイガラムシ類、アブラムシ類	
⑩		下旬		ベルコート水和剤 デミリン水和剤	2,000倍 3,000倍	50g 33g	400%	前日まで 7日前まで	灰星病、黒星病 モモハモグリガ、シンクイムシ類	
⑪	7	上旬		ロブラール水和剤 テツパン液剤	1,500倍 2,000倍	66g 50ml	400%	前日まで 前日まで	灰星病 シンクイムシ類、カメムシ類、モモハモグリガ、ハマキムシ類	●灰星病被害果は、必ず除去し、園外へ持ち出し適正に処分する。 ●カメムシ類の発生が多い園では、スタークル顆粒水和剤(2,000倍)を⑩回目に混用する。
⑫		中旬 (除袋後)		アンビルフロアブル	1,000倍	100ml	400%	前日まで	灰星病、黒星病	●収穫後、台風等、強風が予想される場合は、事前にムツシュボルドーDF(500倍、クレフノン 100倍加用)を散布する。
⑬	8	末 (収穫後)		スミチオン水和剤40	1,000倍	100g	400%	3日前まで	シンクイムシ類、モモハモグリガ、ハマキムシ類	
⑭	9	中旬		ムツシュボルドーDF クレフノン	500倍 100倍	200g 1kg	400%	開花前まで -	せん孔細菌病 薬害軽減	●秋季せん定による切り口には、確実にトップジンMペーストを塗布する。 ●せん孔細菌病の多発園は、10月上旬にもムツシュボルドーDF(500倍、クレフノン 100倍加用)を散布する(秋季防除3回目)。
⑮		下旬		ムツシュボルドーDF クレフノン	500倍 100倍	200g 1kg	400%	開花前まで -	せん孔細菌病 薬害軽減	

アンダーラインは前年からの変更点です。

農薬の使用基準 * 商品名によっては、農薬登録内容が異なる場合がありますので、十分確認してください。

■殺菌剤	使用時期	使用回数
石灰硫黄合剤	発芽前	-
ムツシュボルドーDF	開花前まで	-
ストマイ液剤20	収穫60日前まで	2回以内
トレノックスフロアブル	収穫7日前まで	5回以内
スターナ水和剤	収穫7日前まで	3回以内
デランフロアブル	収穫7日前まで	4回以内
ベルコート水和剤	収穫前日まで	3回以内
マイコシールド	収穫21日前まで	5回以内
ロブラール水和剤	収穫前日まで	3回以内
アンビルフロアブル	収穫前日まで	3回以内
バリダシン液剤5	収穫7日前まで	4回以内
ICボルドー412	-	-
トップジンMペースト	剪定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後	3回以内

■殺虫剤	使用時期	使用回数
機械油乳剤95	-	-
モスピラン顆粒水溶剤	収穫前日まで	3回以内
アブロードフロアブル	収穫14日前まで	3回以内
オリオン水和剤40	収穫14日前まで	2回以内
ダイアジノン水和剤34	収穫前日まで	4回以内
デミリン水和剤	収穫7日前まで	3回以内
テツパン液剤	収穫前日まで	2回以内
スミチオン水和剤40	収穫3日前まで	6回以内*注
ダントツ水溶剤	収穫7日前まで	3回以内
スタークル顆粒水溶剤	収穫前日まで	3回以内
ガットサイドS	収穫30日前まで	1回*注
ウララDF	収穫14日前まで	2回以内
マイトコーネフロアブル	収穫前日まで	1回以内

*注:成分MEPを含む農薬。

MEPの使用回数は6回以内(但し、樹幹処理は1回以内)。

(注意)使用時期が「収穫前日まで」の場合、「散布後24時間」以上あけて収穫してください。

(注意)成分による使用回数制限もあるので、十分に留意して農薬の使用基準を遵守してください。

■その他	使用方法	使用回数
クレフノン	銅水和剤に混用して散布	-

※使用時期、使用回数等の使用基準は令和8年1月27日現在の登録内容です。常に最新の情報を確認してください。

※散布にあたっては、農薬のドリフト(園外等への飛散)の無いよう、十分留意して散布してください。

※農薬はラベルを熟読の上、記載されている使用基準を守って適正に使用しましょう!!